

平成 19 年度用高等学校理科 Master 化学 (化 019)

平成 20 年度用教科書では以下について訂正致します。ご迷惑をお掛け致しますこと、謹んでお詫び申し上げますと共に、ご指導に際しまして、ご配慮戴きますようお願い申し上げます。 (株)新興出版社啓林館編集部

訂正箇所		原文	訂正文
頁	行		
72	表	(C-C(C ₂ H ₆)の値) <u>329</u>	<u>330</u>
190	20	<u>P₄O₁₀</u>	分子間脱水
214	5 図	(ゴム栓をコルク栓に変更)	

改善のための訂正

訂正箇所		原文	訂正文
頁	行		
前見返し		(キャプション) 最新(2005) (₁₀₄ Rfの原子量) (261) (₁₀₅ Dbの原子量) (262) (267) (268) (₁₀₆ Sgの原子量) (263) (₁₀₇ Bhの原子量) (264) (271) (272) (₁₀₈ Hsの原子量) (269) (₁₀₉ Mtの原子量) (268) (277) (276) (₁₁₀ Dsの原子量) (269) (₁₁₁ Rgの原子量) (272) (281) (280)	最新(2007)
13	右下図	(ヨウ素の結晶がより大きい写真に差し替え)	
74	表1	(表中文字) 水酸化アルミニウム <u>Al(OH)₃</u>	水酸化鉄(III) <u>Fe(OH)₃</u>
76	表2	(表中文字) <u>水酸化アルミニウム Al(OH)₃</u>	(削除)
83	21-25	(小文字の <u>v</u> , <u>v'</u> を大文字の <u>V</u> , <u>V'</u> に変更)	
90	20	多い。 (側注追加)	多い。 1 ほかにp.128式24の反応なども起こっている。
101	25	(-)Zn ZnCl ₂ aq, NH ₄ Claq MnO ₂ , C(+)	(-)Zn ZnCl ₂ aq, NH ₄ Claq MnO ₂ (+)
103	3 図	<u>オキシライド乾電池</u>	<u>ニッケル系一次電池</u> (オキシライドの文字の一部を削除)
109	12-14	(1)で予想(修正)された各値を用いて、 1 ~ 3 の各操作の発熱量 q_1' , q_2' , q_3' を温度結果(外挿法で補正した値)から求めよ。	(1)で予想(補正)された各値を用いて、 1 ~ 3 の各操作の発熱量 q_1' , q_2' , q_3' を求めよ。
217	21	<u>発展実験</u>	<u>発展研究</u>
129	21	<u>二酸化硫黄の性質</u>	<u>二酸化硫黄の製法と性質</u>
132	1	<u>アンモニアの発生と性質</u>	<u>アンモニアの製法と性質</u>
144	7 図15	Na ₃ [AlF ₆] ^{*1} (キャプション中文字) Na ₃ [AlF ₆]	Na ₃ AlF ₆ Na ₃ AlF ₆
152	図27	(2つ直列されている直流電源の記号を1つに変更)	
210	図19	(試験管3本中の液量を改善した写真に差し替え)	
210	12	アミドの一種	アミド(<u>p.191</u>)の一種
212	表4	(表中文字) カルボン酸>フェノール類 (キャプション追加)	カルボン酸> <u>二酸化炭素</u> >フェノール類 <u>二酸化炭素は無機化合物だが、比較のために入れた。</u>
220	図 17-18 19	(図中文字) <u>炭酸水素ナトリウム水溶液</u> <u>1mol/L炭酸水素ナトリウム水溶液,</u> <u>BTB溶液,</u>	水酸化ナトリウム水溶液 (削除) (削除)
別冊11	6番解説	(別解を追加)	[別解] (2) 硫酸から生じる H ⁺ の物質量が、水酸化ナトリウムのもつ OH ⁻ の物質量とアンモニアが受け取る H ⁺ の物質量との和と等しいときにちょうど中和し、 <u>酸の価数×酸の物質量 = 塩基の価数×塩基の物質量</u> <u>の関係が成り立つので、吸収されたアンモニアの物質量を n (mol) とすると、</u> <u>$2 \times 0.50 \text{ [mol/L]} \times (120/1000) \text{ [L]} =$</u> <u>$1 \times n \text{ [mol]} + 1 \times 0.50 \text{ [mol/L]} \times (20/1000) \text{ [L]}$</u> <u>$n = 0.11 \text{ [mol]}$</u> <u>アンモニアの体積は、$0.11 \times 22.4 = 2.464 \approx 2.5 \text{ [L]}$</u>